

各 位

平成29年8月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「七草の庭」に咲き誇るオミナエシ（前年の8月中旬に撮影）

オミナエシ（スイカズラ科）

日当たりのよい山野に生える多年草で、草丈が80～120cmです。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭く、尖ります。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。種子で増えるのはもちろん、地下茎を横に伸ばして増える栄養繁殖もします。そのために黄色い花がしばしば群生しています。また満開になると独特な匂いもします。

真夏日が続くこの頃ですが、野草園は市街地より気温が2～3度低く、たくさんの樹木があり、風が吹くので過ごしやすさがあります。暑さのピークを迎え、野草園に涼を求めてやってくる方も見受けられます。園内には沼や湿地、芝生の丘などもあり、樹木の下は日陰で涼しいので、散策や健康ウォーキングに大変適しています。

そんな中、野草園ではもうすでに秋の花が咲いています。「七草の庭」は、秋の七草である青紫色のキキョウ、ピンク色のカワラナデシコ、黄色のオミナエシの花が咲き誇り、黄色の花園になろうとしています。ぜひ、秋の七草を見に来て下さい。

8月中旬から9月上旬までの行事予定

◆【写真コンテスト作品募集】9／1（金）～9／24（日）

詳細はホームページをご覧ください。

◆【虹のギャラリー ～心のスケッチ～】

○日 時 8／22（火）～9／1（金） 9：00～16：30

○場 所 自然学習センター

○内 容 NPO法人虹のネットワークの利用者が描いた水彩画など約40点の展示

◆【山野草の育て方教室】

○日 時 8/29(火) 10:00~12:00

○場 所 自然学習センターピロティ

○講 師 蔵王園芸店 佐藤祐一 氏

○内 容 イワシャジンとサギソウの鉢植え

○対 象 先着13人 ○参加費 2,000円(材料代込、入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【東北南3県ポタニカルアート作品展】

○日 時 9/3(日)~9/24(日) 9:00~16:30 ※9/3は13:00から 9/24は15:00まで

○場 所 自然学習センター

○内 容 ポタニカルアート愛好者の作品を展示し、来園者に鑑賞して頂く。

◆【ポタニカルアート体験講座】

○日 時 9/9(土) 10:00~15:00 (昼食休憩あり)

○場 所 自然学習センター

○講 師 日本ポタニカルアート協会会員 杉崎紀世彦 氏

○内 容 植物のデッサンと彩色、喫茶コーナーで昼食(昼食代別) ○持ち物 不要

○対 象 先着15人 ○参加費 800円(入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【健康ウォーキング講座】

○日 時 9/9(土) 10:00~11:30

○講 師 市健康づくり運動普及推進協議会

○内 容 自然に癒されながらウォーキングやストレッチの方法を学ぶ。

○対 象 先着30人

○参加費 無料(入園料別) ○持ち物 飲み物、歩きやすい服装

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【ガイドウォーキング】

○日 時 8/20(日)、27(日)、9/2(土)、3(日)、9(土)、10(日)

1回目10時~11時、2回目11時~12時、3回目13時~14時、4回目14時~15時

○内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。
もちろん無料です。見頃の花の場所に案内してもらい、その花の説明もしてもらえます。

◆◆◆8月後半に見られる主な花たち◆◆◆



クサギ(シソ科)

日当たりのよい山野の林縁や沿海地に生える落葉の小高木です。花は、芳香のある花を多数つけ、紅紫色の萼と白色の5枚の花びらと長い雄しべがつきだします。花のあと萼は濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をつけきれいです。名は、枝や葉を傷つけると臭気がすることによります。



ツリフネソウ (ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、茎は赤みを帯び節はふくらみます。草丈は50cm程度で、茎の先に数個の花をつり下げます。花は紅紫色で、距はいちじるしくうしろに突きでて渦巻き状になります。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。名は、帆かけ船をつり下げたように見えることからきたようです。



カワラナデシコ (ナデシコ科)

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で基部は茎をすこし抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は優美です。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月には咲き始めます。名の撫子は可憐な花の様子に基づき、河原に生えるからです。



キキョウ (キキョウ科)

日当たりのよい山地や野原などに生える多年草で、観賞用にも多く栽培され、八重咲きや白花などの園芸品種も多いようです。根は太く黄白色をしており薬用とされています。葉は長卵形で先は尖り、ふちには鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



ヒオウギ (アヤメ科)

山地の原野に生える多年草です。観賞用としても栽培されています。葉は広い剣状で扇形に並び、多少白っぽいようです。夏に茎が何度も枝分かれし、枝の端に有柄の花をつけます。花被片は6個で水平に開き、楕円状でへら形、黄赤色で内側に濃い暗紅点が多数あります。名は、葉の並び方が桧扇に似ているのでつけられました。



ハナトラノオ (シソ科)

北アメリカのバージニア州原産。大正時代に渡来したピンクのちょっと変わった花です。吸蜜昆虫が多く集まる花で、アゲハチョウの仲間も多く飛来します。草丈は40～120cm、四方に突き出すように花がつき、花穂が四角錐のようになるので別名「カクトラノオ」と呼ばれます。



ユウガギク (キク科)

近畿地方以北の湿地やあぜに多い多年草で高さ 1～1.5 m。頭花は直径 3～3.5cm の淡青紫色。総苞は長さ 5～6mm で冠毛は 1 mm です。いろいろあるヨメナ属の野菊の中では一番先に咲き始めます。柚の香りがするので「柚香菊」ですが、実際はあまり香らないようです。



マルバハギ (マメ科)

日当たりのいい山地に生える落葉低木です。葉は 3 出複葉で小葉は楕円形または倒卵形で先はまるいです。紅紫色の旗弁、濃紫色の翼弁、淡紅紫色の竜骨弁をもった蝶形花を密集して開きます。ヤマハギとは、花序が葉よりも短い、萼片が針状にとがる、翼弁が竜骨弁より長いことによって区別できます。



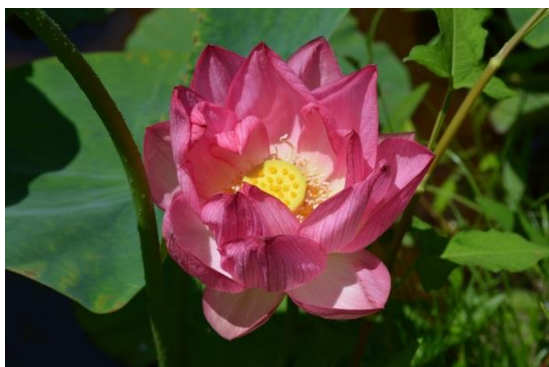
レンゲショウマ (キンポウゲ科)

本州の主として太平洋側の深山に生える多年草で、日本特産のひとつです。葉は大形で 2～4 回 3 出複葉で、小葉は卵形です。茎の上部に淡紫色の花をまばらに下向きにつけます。萼片は多数で楕円形をしており、花弁も多数で倒卵状長楕円形をしています。花がハスの花に、葉がサラシナショウマに似ていることからついた名のようです。



フシグロセンノウ (ナデシコ科)

山地に生える多年草です。茎の節は太く、紫黒色を帯びています。葉は対生し、卵形または楕円状披針形で先はとがりふちに毛があるようです。茎頂に朱赤色の花を開きます。花弁は 5 枚で倒卵形です。仙翁とは京都嵯峨にある寺の名で、そこで栽培した仙翁という花と似ていて、節が黒いから本種の名になったといわれています。



ハス (スイレン科)

古く中国から渡来し、仏教と関わりの深い植物で、よく寺院の池などに植えられます。径 30～50 cm の丸い大きな葉を水面から立ち上げ、花茎に大きなピンクの花を付けます。花弁が 16 枚程で中央に黄色の花床があり、雌しべが埋まるようについた姿はじょうろの口のようにです。ハスの地下茎がレンコンで食用にもされています。



オトコエシ (スイカズラ科)

山野にごく普通に生える多年草で、全体に毛が多いようです。葉は対生し、多くは羽状に分裂し、裂片は卵状長楕円形になり、頂片が最も大きくなります。茎の上部に小さい白花を多数つけます。果実は倒卵形でまわりが翼状になります。オミナエシに対して強剛であるので、男性に見立ててオトコエシというようです。



カリガネソウ (シソ科)

北海道～九州、中国に分布する、山地や原野に生える多年草。近くによると不快な臭気を持っています。茎は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生し、葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長くて、花冠から飛び出すのが特徴です。和名は、花の形が雁の姿に似ることからです。



ツリガネニンジン (キキョウ科)

日当たりの良い山野の草地に生える多年草で、葉は楕円形で、3～4枚の輪生となります。高さ1m程の茎の上部に淡紫色の釣鐘形の花を数個、輪生に釣り下げます。萼は細くて、雌しべが花から突き出ています。大きな根は薬用に利用されます。名前は花の姿と、大きな根を朝鮮人参に例えたからのようです。



フジバカマ (キク科)

本州の関東地方以西、四国、九州の土手などに野生する多年草です。奈良時代に中国から渡来したものと考えられているそうです。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があります。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっているそうです。



アケボノソウ (リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれます。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の密腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てつけられたようです。